

総会報告

第 14 回定期総会報告

日 時：令和 6 年 3 月 22 日(金)13 時 00 分～14 時 00 分
 会 場：全水道会館（東京都文京区本郷 1-4-1）
 出席代議員数：53 名（内委任、議決権行使 46 名）
 （代議員数総数：58 名、過半数：30 名以上、議決権の 2/3：40
 名以上）

議 案：

- | | |
|-----------------|-----------|
| (1) 令和 5 年度事業報告 | 【第 1 号議案】 |
| (2) 令和 5 年度決算報告 | 【第 2 号議案】 |
| (3) 令和 6 年度事業計画 | 【報告資料 1】 |
| (4) 令和 6 年度予算計画 | 【報告資料 2】 |
| (5) 令和 6 年度役員の件 | 【第 3 号議案】 |
| (6) 名誉会員推挙の件 | 【第 4 号議案】 |

議 事：

午後 1 時 00 分、定款第 15 号に基づき菅野重樹会長が議長となり、出席者が定款 17 条に定める定足数に達しているとの旨報告の上、第 14 回定期総会の開会を宣した。

次いで、以下の各議案について提案および詳細な説明があり、逐次審議を行った結果、いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。



【第 1 号議案】

令和 5 年度 事業報告

（自 令和 5 年 1 月 1 日 至 令和 5 年 12 月 31 日）

I. シンポジウム（継続事業 1）【担当：事業理事／学術講演会理事】

1. ダイバーシティ推進委員会企画

- (1) 豊島岡女子学園中学校高等学校向けキャリアイベント「ロボット研究の現場を感じよう！」
開催日：2023 年 6 月 10 日(土)
開催地：東京大学工学系研究科
- (2) 豊島岡女子学園中学校高等学校向けセミナー「ロボットをデザインして動かそう！」（全 6 回講座）
開催日：2023 年 11 月 12 日(日), 11 月 19 日(日),
12 月 26(火)～29 日(金)
開催地：東京大学 本郷キャンパス内

- (3) 女性ロボット研究者のためのオンライン交流会 (Frau 憇談会)
開催日：2023 年 2 月 20 日(月), 6 月 20 日(火)

2. 学術講演会オープンフォーラム

- 第 41 回学術講演会（仙台国際センター、2023 年 9 月 11 日(月)～14 日(木)）にて、オープンフォーラム（無料・一般公開）を 17 件企画。

II. 学会誌（継続事業 2）【担当：学会誌理事】（定款第 4 条 2 号）

学会誌第 41 卷 1 号～10 号を発行し、会員に配布した。各号の特集テーマは次のとおりである。

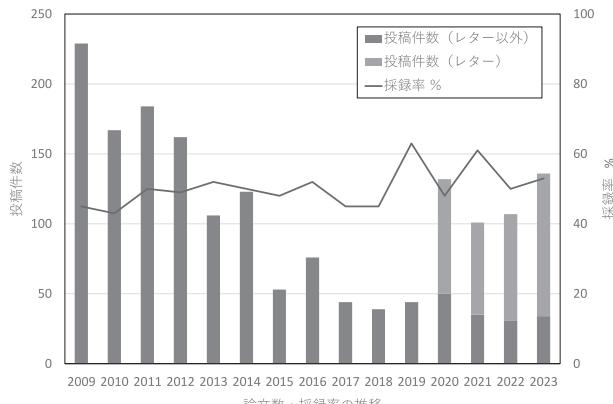
- 第 41 卷 1 号 ロボット ELSI 研究の現状と課題
 - 第 41 卷 2 号 身体のダイナミクスと環境の相互作用から創発する受動的な脚ロコモーション
 - 第 41 卷 3 号 神経・身体・環境の相互作用から創発する多脚ロボットの歩容
 - 第 41 卷 4 号 臨床応用を目指した医療福祉ロボットシステムの開発
 - 第 41 卷 5 号 ロボティクス新パラダイムの受容、過去と未来
 - 第 41 卷 6 号 ロボティクスと微分幾何学
 - 第 41 卷 7 号 開かれた知能のフロンティア
 - 第 41 卷 8 号 JST ACT-X AI 活用で挑む学問の革新と創成
 - 第 41 卷 9 号 AI の安全性とロボティクス
 - 第 41 卷 10 号 ワイヤ駆動機構・システムの新展開
- 特集号に関しては、ロボット学の幅広い学問領域において、学術的

真理の追求から社会的問題解決に至るまで縦横無尽に特集を企画し発行してきた。また特に 2021 年度より論文種別に追加された人文社会分野にも関心を持ってもらうために、例年に引き続き 1 号で人文社会系の特集を企画した。

一般記事では、学生編集委員会による企業や学術講演会レポートの掲載を継続的に行うなど、コンテンツの多様化に努めている。特に、より柔軟に記事を掲載できるように、今年度は後述のとおり規則集を改定し、学生編集委員会企画記事のための論文種別を新設した。

一般投稿論文については、年間の論文投稿件数は 136 件（2022 年度 107 件、2021 年度 101 件、2020 年度 132 件）、判定結果は 53%（2022 年度採録可 50%, 2021 年度 61%, 2020 年度 48%）であった。判定までの期間は平均 114 日（2022 年度 116 日、2021 年度 128 日）、最短 32 日（2022 年度 54 日）、最長 267 日（2022 年度 210 日）で、掲載までの期間は平均 375 日（2022 年度 307 日、2021 年度 330 日）であった。なお、評価項目の割合は、新規性 31%（2022 年度 14%, 2021 年度 33%）、有用性 52%（2022 年度 67%, 2021 年度 49%）、提案性 17%（2022 年度 19%, 2021 年度 18%）となっている。

学術講演会と連動したレター同時投稿について、2023 年度の投稿件数は 102 件（2022 年度 76 件、2021 年度は 66 件）だった。制度の定着が進んでいると考えられるが、短期間に多くの論文が投稿されることから事務局および論文査読小委員会の負担が大きいため、ScholarOne 上でのシステム改善を含めた業務の改善を開始している。



広告の年度集計結果に関しては、件数は 45 件（2022 年度 48 件、2021 年度 52 件）、金額は 3,934,689 円（2022 年度 5,107,388 円、2020 年度 4,596,196 円）であった。

その他の報告として、2023 年 5 月には寄稿および査読に関する規則集の改定を行った。主な改定としては下記の点が挙げられる：

- 学術・技術論文およびレターについては、写真を含め図表にカラー画像の使用が可能になった。
- 一般記事に種別「インタビュー」「学生編集委員会企画」を新設した。
- 査読小委員会副委員長（各分野担当）、担当委員、査読者の業務を明確化した。

このほか、論文ハンドリングに用いているシステム ScholarOne Manuscripts の設定改良、早期公開のさらなる早期化、学生編集委員会アクティビティを活性化させるための内規整備を開始し、一部は運用を開始している。

III. 欧文誌（継続事業 3）【担当：欧文誌理事】（定款第 4 条 2 号）

1. 欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

Vol. 37 を発行した。各号の詳細は以下のとおりである。

Vol./No. Pub date Online Theme of Issues

37/1-2	Jan	Control Technology for Networked and Distributed Robotics (Part I) (12 papers)
37/3	Feb	Control Technology for Networked and Distributed Robotics (Part II) (6 papers)
37/4	Feb	Regular Issue (5 papers)
37/5	Mar	Online Motion Planning and Model Predictive Control (7 papers)
37/6	Mar	Regular Issue (3 papers)

37/7	Apr	Regular Issue (5 papers)
37/8	Apr	Soft/Social/Systemic (3S) Robot Technologies for enhancing Quality of New Normal (QoNN) (3 papers)
37/9-10	May	Regular Issue (9 papers)
37/11-12	Jun	Regular Issue (7 papers)
37/13	Jul	World Models and Predictive Coding in Robotics(Part I) (4papers)
37/14	Jul	Regular Issue (6 papers)
37/15	Aug	Robotics Technology for Agriculture (3 papers)
37/16	Aug	Regular Issue (6 papers)
37/17-18	Sep	Regular Issue (9 papers)
37/19	Oct	World Models and Predictive Coding in Robotics (Part II)
37/20	Oct	Regular Issue
37/21	Nov	Multimodal Processing and Robotics for Dialogue Systems (Part I) (5 paper)
37/22	Nov	Regular Issue (5 papers)
37/23	Dec	Regular Issue (4 papers)
37/24	Dec	Robot and Human Interactive Communication 2023 (4 papers)

2. 論文の投稿、査読の状況

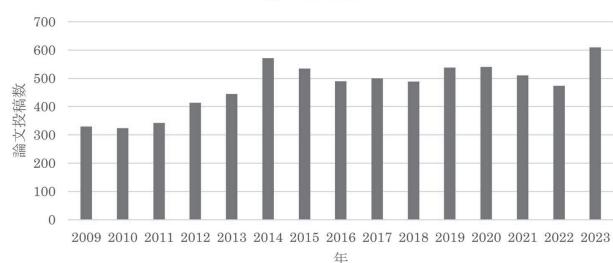
2023年における年間論文投稿総数は609件（新規投稿論文・452件、再投稿論文・157件）であった（下表参照）。数年にわたって、論文投稿総数は500件程度で安定している状況である。近年、Editorリジェクトを積極的に実施することで、質の高い論文のみを査読者に回すような取り組みを行っており、また全投稿論文に対してCrossCheck™ softwareが活用され、剽窃の事前チェックを行っている。

なお、2023年度の投稿から第1回めのディイシジョンまでの期間は平均で37.6日であった（2022年度は38.29日、2021年度は43.1日、2020年度は53.47、2019年度は62.18日、2018年度は76.03日、2017年度は68.56日、2016年度は61.57日、2015年度は66.7日）。これまで90日を目標にしてきているが、ScholarOneの導入の効果もあり目標を7年以上連続で達成している。多くの投稿論文は2回目の査読で採録の可否が決まるため、投稿から最終ディイシジョンまでの平均日数は62.34日となっている。2023年度の投稿論文の採択率は、22.41%であった。今後も査読期間の短縮に努めていく。

3. 企画／編集／発行作業

国内外から優れた特色ある論文を集めることを目指し、Section制度（特定の副分野に独自のエディタ陣を配置し、自律的な査読を実施する制度）を創設した。Advanced Robotics固有の特色／強みに依拠したSectionが世界からの投稿を吸引することで国際化を進める効果も狙う。2024年1月から制度の運用を開始している。併せてAdvanced Roboticsの論文をフラグシップカンファレンスであるIROSで発表できるよう連携を進め、また、特集号企画についても昨年度に続き時代に即した内容を計画していく。

論文投稿数



4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

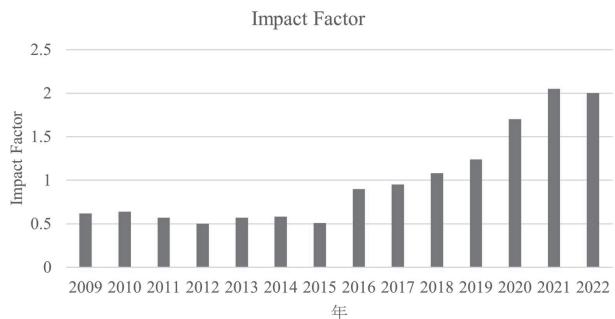
Institute for Scientific Information (ISI)社のCitation Index（インパクトファクタ）の推移を以下に示す。2016年にインパクトファクタが0.920に大幅に上昇し、その後の継続的に上昇し2018年においては1.104と、初めて1.0を上回る値を達成。2020年は1.699に大きく向上した。その後さらにIFを向上し、2021年以降は2以上を維持している。今後もTaylor & Francis社との連携を通して、戦略的に上昇させることを検討する一方、インパクトファクタだけでは表せない雑誌の国際的な評価をどのように上げていくかを検討していく必要がある。

5. 共同事業者であるTaylor & Francis社との契約内容の更新・交渉

以下のような契約内容(2022年度の契約内容と同じ)で更新を行った。

2023年(Vol.37)年間発行数: 24号

1. 会員全員の電子購読料金 15,000ユーロ／年
2. RSJへ支払われる編集料 20,000ユーロ／年
3. ARベストペーパ賞金 1,000ユーロ／年



採択された投稿論文は、掲載号発行前にTaylor and Francisにより電子出版され、閲覧・引用が可能となっている。採択決定から電子出版までは、早ければ1ヶ月以内で対応可能である。

6. その他

第41回日本ロボット学会学術講演会において、学会誌理事、国際理事と共に学術ランチョンセミナー「若手もシニアも海外の研究コミュニティとちゃんと繋がろう！～これ以上、世界における日本のロボット研究の存在感が消えないために～」を開催し、150名を超える参加者が集まった。また、昨年に引き続きロボティクスシンポジアのプログラム委員会と連携し、ロボティクスシンポジアからの同時投稿論文を受け付けた。

IV. 調査・研究（継続事業4）【担当：企画・広報理事】（定款第4条3号）

1. 研究専門委員会

前年度から継続して、以下の研究専門委員会活動を実施した。

委員会名	委員長	発足	種別
子どもを中心のロボティクス研究専門委員会	新妻実保子	2023年8月	II種
医療機器を搭載した汎用ロボットに関する研究専門委員会	小林英津子	2023年8月	I種
食品サンプル規格標準化研究専門委員会	和田一義	2023年4月	I種
ロボット性能評価工学研究専門委員会	佐藤徳孝	2023年1月	I種
介護ロボット研究専門委員会	柴田智広	2022年3月	I種
若手・学生のためのキャリアパス開拓研究専門委員会	横田諭	2021年4月	I種
ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会	稻谷龍彦	2020年4月	I種
複雑高精度機械の組立技術研究専門委員会	大隅久	2020年4月	I種
遊びとロボット研究専門委員会	望山洋	2017年5月	I種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017年4月	I種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017年4月	II種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014年8月	II種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	田原健二	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	田中孝之	2008年4月	I種
空間知能化研究専門委員会	李周浩	2007年1月	II種

*ロボット考学研究専門委員会(委員長：上出寛子)は2023年3月末にて活動を終了した。

2. 学会特命委員会

2023年度より「調査研究委員会」および「技術別・カテゴリー別研究委員会」を統合し「学会特命委員会」として活動を開始した。

委員会名	委員長	発足	形態
F-REI 調査事業推進委員会	大須賀公一	2023年10月	時限
災害対応ロボティクス委員会	松野文俊	2023年6月	常設

廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する研究会	吉見 順	2023年4月	常設
建設ロボット委員会	大隅 久	2023年4月	常設
ロボット教育事業計画委員会	入部正継	2023年4月	常設
産学連携委員会	久保田哲也	2023年4月	常設

3. 研究協議会

会期：2023年9月12日(火)

会場：仙台国際センター会議棟2F 小会議室4（会議室4）

RSJ2023会期中に研究協議会定例会を開催し、各研究専門委員会の活動報告を行った。

V. 表彰（継続事業5）【担当：企画・広報理事】（定款第4条4号）

2023年9月第41回学術講演会において、学会誌論文賞4件、Advanced Robotics Paper Awards 4件、実用化技術賞3件、優秀研究・技術賞8件、優秀講演賞7件、若手講演賞5件、研究奨励賞3件、ロボティクスシンポジア研究奨励賞2件、ロボティクスシンポジア優秀研究・技術賞1件、International Session Best Presentation Award 4件、ロボット活用社会貢献賞1件、功労賞1件の表彰を行う。また、2023年3月末に優秀学生賞を40人に授与した。

1. 学会誌論文賞

- (1) 状態遷移速度図を用いた部品整列ロボットの作業時間算出法
(日本ロボット学会誌第39巻第7号, pp. 645-652)
永井 清（立命館大学）、西村海里（立命館大学）、櫻田 武（立命館大学）、土橋宏規（和歌山大学）、吉川恒夫（立命館大学）
- (2) 橋梁点検におけるロボットの優位性と社会実装のための性能評価法の検討
(日本ロボット学会誌第40巻第1号, pp. 35-53)
新田恭士（国土交通省）、油田信一（芝浦工業大学）、武若 聰（筑波大学）、大槻 崇（国土技術政策総合研究所）、近藤弘嗣（国土交通省）、渡邊賢一（国土交通省）、山内元貴（土木研究所）
- (3) エコロケーションに基づく視覚シーンの再構成手法の提案と入力特徴量の検討
(日本ロボット学会誌第40巻第4号, pp. 351-354)
岸波華彦（東京工業大学）、糸山克寿（東京工業大学）、西田健次（東京工業大学）、中臺一博（東京工業大学／（株）ホンダ・リサーチ・インスティチュート・ジャパン）
- (4) オブティカルフローの学習に基づく袖通し作業中の布のオンライン状態推定
(日本ロボット学会誌第40巻第9号, pp. 817-826)
山崎隆広（信州大学）、アーノード ソービ（信州大学）、山崎公俊（信州大学）

2. Advanced Robotics Paper Awards

2-1 Advanced Robotics Best Paper Award

- (1) Comparative anatomy of quadruped robots and animals: a review
(Advanced Robotics Vol. 36, No. 13, pp. 612-630)
Akira Fukuhara (Tohoku University), Megu Gunji (Toyo University), Yoichi Masuda (Osaka University)

2-2 Advanced Robotics Best Survey Paper Award

- (1) Explainable autonomous robots: a survey and perspective
(Advanced Robotics Vol. 36, No. 13, pp. 612-630)
Tatsuya Sakai (Osaka University), Takayuki Nagai (Osaka University/University of Electro-Communications)

2-3 Advanced Robotics Excellent Paper Award

- (1) CycleGAN-based realistic image dataset generation for forward-looking sonar
(Advanced Robotics Vol. 35 No. 3-4, pp. 242-254)
Dingyu Liu (The University of Tokyo), Yusheng Wang (The University of Tokyo), Yonghoon Ji (Japan Advanced Institute of Science and Technology), Hiroshi Tsuchiya (Research Institute, Wakachiku Construction Co., Ltd.), Atsushi Yamashita (The University of Tokyo), Hajime Asama (The University of Tokyo)
- (2) Estimation of articulated angle in six-wheeled dump trucks using multiple GNSS receivers for autonomous driving
(Advanced Robotics Vol. 35 No. 23, pp. 1376-1387)

Taro Suzuki (Chiba Institute of Technology), Kazunori Ohno (Tohoku University), Shotaro Kojima (Tohoku University), Naoto Miyamoto (Tohoku University), Takahiro Suzuki (Tohoku University), Tomohiro Komatsu (Kowatech Co., Ltd.), Yukinori Shibata (Sato Koumuten Co., Ltd.), Kimitaka Asano (Sanyo-Technics Co., Ltd.), Keiji Nagatani (The University of Tokyo)

3. 実用化技術賞

- (1) ロボット・建物設備連携インターフェースサービス「LCI」
鍋島厚太（（株）Octa Robotics）、前川幸士（（株）Octa Robotics）
- (2) 把持方式組合せ計量機「GCW-V」
高橋 淳（（株）イシダ）、前田修一（（株）イシダ）、中 亮介（（株）イシダ）、立川 聰（（株）イシダ）、北條正晃（（株）イシダ）、遠藤 玄（東京工業大学）
- (3) 石油ガス化学プラント自動巡回点検防爆ロボット“EXROVR（エクスローバー）”
大西 献（三菱重工業（株））、小島弘義（三菱重工業（株））、水野直希（三菱重工業（株））、小堀周平（三菱重工業（株））、森川玲於奈（三菱重工業（株））、村角謙一（三菱重工業（株））、大西典子（三菱重工業（株））、宿谷光司（三菱重工業（株））

4. 優秀研究・技術賞

- (1) 服部祥英（東北大学電気通信研究所）、福原 洸（東北大学電気通信研究所）、加納剛史（東北大学電気通信研究所）、石黒章夫（東北大学電気通信研究所）
動物の筋筋膜経線に着想を得た四脚ロボットの脚-体幹連動機構の提案
第40回日本ロボット学会学術講演会（IK1-05）
- (2) 大野明日香（株式会社アシックス）
産業用ロボットを用いたランニングシューズ摩耗耐久性評価試験について
第40回日本ロボット学会学術講演会（3C2-03）
- (3) 小澤隆太（明治大学）
腱駆動機構の安全度についての考察
第40回日本ロボット学会学術講演会（4E1-09）
- (4) 名手一生（立命館大学）、王 忠奎（立命館大学）、平井慎一（立命館大学）
外部との接触によるロック機構を用いた多関節指ロボットグリッパの開発
第40回日本ロボット学会学術講演会（4K3-08）
- (5) 土屋 倏（信州大学）、青野 光（信州大学）、KangChangkwon（アラバマ大学）
減圧環境下でのデュアルモーター駆動羽ばたき翼型飛行ロボットの翼運動と空気力の計測と解析
第40回日本ロボット学会学術講演会（2G2-03）
- (6) 多田隈建二郎（東北大学）、清水翔也（東北大学）、佐野峻輔（東北大学）、鍛持優人（東北大学）、恩田一生（東北大学）、高橋知也（東北大学）、阿部一樹（東北大学）、渡辺将広（東北大学）、多田隈理一郎（山形大学）、昆陽雅司（東北大学）、田所 諭（東北大学）
反射型駆動ハンド機構～ハエトリグサの閉葉開始機序から抽出した接触カウンタ含有要素
第40回日本ロボット学会学術講演会（4K3-10）
- (7) 坂口聰範（九州大学）、山本 薫（九州大学）
平行リンクモジュールを用いた3軸変形フレームを有するドローンの提案
第40回日本ロボット学会学術講演会（2G2-07）
- (8) 中村隼大（豊橋技術科学大学）、出原俊介（京都先端科学大学）、真下智昭（岡山大学）
広視野内視鏡のための小型球面超音波モータの開発
第40回日本ロボット学会学術講演会（4J2-06）

5. 優秀講演賞

- (1) 稲村和浩（中央大学）
人とロボットの協働によるねじ締め作業に関する研究
第40回日本ロボット学会学術講演会（3I1-03）
- (2) 神野 誠（國立館大学）
マイクログリッパを有する手術支援用ハンドヘルドデバイスの試作

お 知 ら せ

- 第40回日本ロボット学会学術講演会（4J1-06）
(3) 谷川民生（産業技術総合研究所）
CPSを基盤とする人のモデルを考慮した人・ロボット協調作業における安全性と生産性の両立
第40回日本ロボット学会学術講演会（3I1-06）
(4) 西村齊寛（金沢大学）
モータレスロボットグリッパの開発
第40回日本ロボット学会学術講演会（4K3-01）
(5) 寺前達也（株式会社国際電気通信基礎技術研究所）
上肢肩屈曲アシスト時の共同運動予測モデルを用いたアシスト率の最適化～脳卒中片麻痺患者によるフレームワークの実証
第40回日本ロボット学会学術講演会（2H2-05）
(6) 菅原研（東北学院大学）
視覚支援学校におけるプログラミング教育のためのロボットシステム
第40回日本ロボット学会学術講演会（3D2-02）
(7) 吹田和嗣（トヨタ自動車（株）（現 川崎重工業（株）））
モノづくり分野における人を中心としたロボットとの協働・協調化と合意への期待
第40回日本ロボット学会学術講演会（3I2-02）
6. 若手講演賞
(1) 小塚陽希（東京大学）
強化学習を用いた動的障害物環境下でのマルチロータ高速移動
第40回日本ロボット学会学術講演会（1G1-02）
(2) 柏木僚太（横浜国立大学）
FPGA実装を指向した混合ガウス型識別モデルに基づく人間支援インタフェースのEMG制御
第40回日本ロボット学会学術講演会（2H2-06）
(3) 片山想太郎（京都大学）
ロボットの全身動力学に基づいたモデル予測制御ソルバー robotooc の開発
第40回日本ロボット学会学術講演会（3E1-05）
(4) 金田侑（パナソニックホールディングス株式会社）
柔軟物体のすくい取り・引き込み機能を備えたロボットハンド機構～原理創案・実機具現化と基礎把持実験の実施
第40回日本ロボット学会学術講演会（4K3-05）
(5) 馬場晃志郎（豊橋技術科学大学）
インセクトスケール歩行ロボットのためのマイクロギヤードモータ開発
第40回日本ロボット学会学術講演会（2K2-06）
7. 研究奨励賞
(1) 恩田一生（東北大学）
加圧により柔剛切替を可能とする多関節線状メカニズムの原理考案・実機具現化
(2) 谷口彰（立命館大学）
環境に適応した空間的知識に基づくサービスロボットの確率論的プランニング
(3) 坂口聰範（九州大学）
平行リンクモジュールを用いた推力損失のない変形ドローンの開発
8. ロボティクスシンポジア研究奨励賞
(1) 金沢直晃（東京大学）
調理支援ロボットの視覚-言語モデル時系列利用によるレシピ記述からの食材状態変化認識
第28回ロボティクスシンポジア（2A3）
(2) 後藤優斗（東京工業大学）
小径孔を通過可能な内部調査用多関節アームの開発
第28回ロボティクスシンポジア（3A1）
9. ロボティクスシンポジア優秀研究・技術賞
(1) 三木章寛（東京大学）、永松祐弥（東京大学／株式会社アクシス）、河原塚健人（東京大学）、平岡直樹（東京大学）、岡田慧（東京大学）、稻葉雅幸（東京大学）
高応答性を備え多様なロボットの扱いを可能とするハードウェア抽象化デバイス制御プラットフォーム開発
第28回ロボティクスシンポジア（5A1）
10. International Session Best Presentation Award
10-1 Winner
(1) Zhenan Zhang (The University of Tokyo)
Hybrid Flexible Tactile Sensor for Detecting Pressure and Temperature Using Multi-frequency Inductive Excitation
41st RSJ2023
- 10-2 Finalist
(1) Junyi Shen (The University of Tokyo)
Hysteresis Compensation for Control of Dual-PAM Actuator
41st RSJ2023
(2) Zhenan Zhang (The University of Tokyo)
Hybrid Flexible Tactile Sensor for Detecting Pressure and Temperature Using Multi-frequency Inductive Excitation
41st RSJ2023
(3) Enrique Calderon-Sastre (Hiroshima University)
Evaluation of Reaction Time Training Using Pneumatic Gel Muscles
41st RSJ2023
(4) Po-Yen WU (NARA Institute of Science and Technology)
Reinforcement learning of tool-use policies that maximize remaining useful life
41st RSJ2023
11. ロボット活用社会貢献賞
(1) 自社店舗へ3000台の配膳ロボット導入と日常運用への定着
株式会社すかいらーくホールディングス
12. 功労賞
(1) IROS2022 のハイブリッド開催
IROS2022 実行委員会（実行委員長：馬 書根（立命館大学））
13. 優秀学生賞
楠山弘基（大阪大学基礎工学部知能システム学コース）
宮下佳以（大阪大学工学部応用理工学科機械工学科目）
山内耀斗（大阪大学基礎工学部知能システム学コース）
南井康佑（大阪工業大学ロボティクス＆デザイン工学部ロボット工学科）
山岡将輝（岡山大学工学部機械システム系学科システム工学コース）
森翔太（金沢大学理工学域フロンティア工学類）
山口優希（岐阜大学工学部機械工学科）
代田和輝（九州大学工学部機械航空工学科機械工学コース）
林晃生（九州大学工学部機械航空工学科機械工学コース）
菊住健太（京都大学工学部物理工学科）
西山宙希（近畿大学工学部ロボティクス学科）
林出和之（慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科）
相川佑也（工学院大学工学部機械システム工学科）
浅房陽平（芝浦工业大学工学部電気工学科）
井橋龍亮（千葉工業大学先進工学部未来ロボティクス学科）
河本拓己（千葉工業大学先進工学部未来ロボティクス学科）
原勇飛（中央大学理工学部精密機械工学科）
大滝梨乃（筑波大学理工学群工学システム学類）
多田遙香（筑波大学理工学群工学システム学類）
樹屋望（筑波大学理工学群工学システム学類）
石田和貴（電気通信大学情報理工学域II類先端ロボティクスプログラム）
二又川皓平（電気通信大学情報理工学域II類計測・制御システムプログラム）
小西駿介（東京大学工学部精密工学科）
大友秀太（東京工業大学工学院機械系）
菊池隼（東京工科大学工学部機械工学科）
藤井勇太（東京工業大学工学院システム制御系）
吉村弥晏（東京都立大学システムデザイン学部機械システム工学科）
瀬沼涼（東洋大学理工学部機械工学科）
武中堯秀（富山県立大学工学部知能ロボット工学科）
森健登（名古屋大学工学部機械・航空宇宙工学科）
大久保翔馬（日本工業大学先進工学部ロボティクス学科）
竹内聖登（北海道大学工学部情報エレクトロニクス学科）
坂本龍音（室蘭工業大学理工学部創造工学科機械ロボット工学）

コース)	
外山侑里佳	(名城大学理工学部メカトロニクス工学科)
岡田龍斗	(山形大学工学部機械システム工学科)
柏木僚太	(横浜国立大学理工学部数物・電子情報系学科)
津久井陽平	(横浜国立大学理工学部機械・材料・海洋系学科機械工学 EP)
水野公稀	(立命館大学理工学部ロボティクス学科)
大辻翔雅	(和歌山大学システム工学部システム工学科)
日比貴祐	(早稲田大学創造理工学部総合機械工学科)

VI. 國際（継続事業 6）【担当：國際理事】（定款第4条5号）

1. 國際委員会活動

國際委員会は、日本のロボット研究の國際的優位性を基盤にしてRSJの國際的な存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し実施するための委員会として活動している。今年度もこれまでの活動を継続し、

- ・国内の外国人研究者向けの研究発表の機会提供サービス、
- ・国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み、

を柱に活動を行った。

2. 第41回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施

これまでと同様に、日本ロボット学会学術講演会において、国際セッションを実施した。国際セッションでは、セッションの司会、発表、質疑応答のすべてが英語で行われる。発表者には、日本に滞在する留学生、研究者が多く含まれ、日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは、外国人会員に対する有益なサービスであるとともに、日本ロボット学会を海外の研究者、技術者に知ってもらうための貴重な機会である。また日本の若手研究者にとって、国際学会で発表する前の練習としても利用されており、このような場を提供する意義は大きい。今年度の第41回日本ロボット学会学術講演会においては、

- | | |
|---|----------------|
| ・IS1 : AI, Learning and Control | 12 件 |
| ・IS2 : Human and Robot | 10 件 |
| ・IS3 : Robotics, Mechatronics and Control | 12 件 (合計 34 件) |

の三つのトピックでの論文が六つの時間帯（スロット）で発表された。2012～2022年の論文発表件数はそれぞれ、41件、26件、27件、16件、23件、14件、19件、31件、14件、25件、41件となっており、昨年（数年ぶりの対面開催）の大幅投稿数増に比する状況である。今後国際セッションをより盛り上げていくためには、国際担当理事だけでなく、国際委員にセッションを企画していただくなど一層の改善が必要と考える。また、2019年から引き続き、国際セッションでの優秀な発表を対象にした賞（International Session Best Presentation Award）の審査を行い Winner 1件の授与と Finalist 2件の授与を以下のとおり行った。

International Session Best Presentation Award

Winner: Zhinan Zhang (The University of Tokyo)

Finalist: Junyi Shen (The University of Tokyo), Enrique Calderon-Sastre (Hiroshima University),

Po-Yen WU (NARA Institute of Science and Technology)

また昨年度に引き続き学会誌理事、欧文誌理事と共同で企画し、学術ランチョンセミナー「若手もシニアも海外の研究コミュニティとちゃんと繋がろう！～これ以上、世界における日本のロボット研究の存在感が消えないために～」を開催した。安琪先生（東大）、谷口忠大先生（立命館大学）に、それぞれ国際会議・国際論文誌への投稿の後押しや国際会議でワークショップを企画する意義などをご講演いただき、世界のコミュニティと繋がり存在感を發揮するための質疑・討論を行った。

3. 国際会議への対応

RSJが共催となっているRO-MANとIROSに対し、以下のような活動を行った。

(1) The 32nd IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2023)

期間：2023年8月28日～8月31日、韓国・釜山（ハイブリッド開催）

期間中にステアリング会議（現地+オンライン形式）が開催され、ロボット学会からは副会長、国際担当理事、事務局長が現地とオンラインで出席し、スポンサー学会の体制や今後の開催計画などを確認した。また本会議では、昨年度より制定されたRSJ Pioneering Research Award in Robot and Human Interactive

Communicationに対して、国際理事を中心にRSJ Award Committeeを構成し、論文とプレゼンテーションにより審査した。以下の通り選定し、Award Ceremonyにおいて副会長からRSJ Awardの授与を行った。

Winner: Jauwairia Nasir, Mortadha Abderrahim, Barbara Bruno, Pierre Dillenbourg, "An HMM-Based Real-Time Intervention Methodology for a Social Robot Supporting Learning"

(2) 2023 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2023)

期間：2023年10月1日～10月5日、アメリカ・デトロイト（ハイブリッド開催）

学会前日にIROS Advisory/Steering Committee Meetingが開催され（現地+オンライン形式）、ロボット学会からは会長、副会長、事務局長、国際担当理事が現地とオンラインで出席し、今後の開催体制や開催計画などを確認した。

その他、IROSにおける当学会ならびに日本のロボット研究の存在感の維持・向上を目的に、大学研究室を対象に研究展示に関する資金援助を企画した。残念ながら今年度は展示希望がなかったが、今後も引き続き企画・検討を進めていく。またRSJブースを展示会場に設置し、Advanced Roboticsの配布を行った。120冊が即日なくなる状況で好評であった。

4. 国際会議共催／協賛

共催となっているRO-MANおよびIROSを含め、本会に関連する国際会議の共催（2件）、協賛（8件）、後援（0件）を行った（2023年1月～12月審査分）。

VII. 学術講演会（その他事業 1）【担当：学術講演会理事】（定款第4条1号）

1. 学術講演会

(1) 第41回学術講演会

期 日：2023年9月11日(月)～14日(木)

会 場：宮城県仙台市 仙台国際センター展示棟

実行委員長：大野和則（東北大学）

副実行委員長：平田泰久（東北大学）

副実行委員長：田村雄介（東北大学）

プログラム委員長：石上玄也（慶應義塾大学）

プログラム副委員長：高橋正樹（慶應義塾大学）

プログラム副委員長：佐々木洋子（産業技術総合研究所）

【発表件数：721件】

一般セッション：40 テーマ

オーガナイズドセッション：25 テーマ

International Session : 3 テーマ

スポンサー企業：17 件（ダイヤモンド：3 件、ゴールド 12 件、シルバー 2 件）

機器展示：47 社

【特別企画】

(1) 特別講演：生物がもつ「つながり」のモデルと無生物への応用の試み

講演者：菊水健史 氏 麻布大学獣医学部動物応用科学科教授

【参加者数：1,480 名】

正会員／終身会員：520 名

学生会員：201 名

協賛後援団体一般会員：71 名

協賛後援団体学生会員：97 名

一般非会員：119 名

学生非会員：256 名

賛助会員：46 名

招待者：170 名

（一時託児利用：9 名）

【無料ランチョンセミナー：4 回、1,200 食】

スポンサー・ランチョンセミナー：3 回

学術ランチョンセミナー：1 回

VIII. 講習会（その他事業 2）【担当：事業理事】（定款第4条1号）

1. ロボット工学セミナー

コロナ5類となったが、引き続きオンライン開催を実施、ハイブリッド開催も可能とした。

- (1) 第146回セミナー「機械学習の発展とロボット工学への応用」
 期日：2023年6月9日(金)オンライン開催
 講師：藤吉弘亘(中部大学), 栗田修平(理化学研究所), 辻俊明(埼玉大学), 小林泰介(情報学研究所)
 オーガナイザー：大賀淳一郎(株式会社東芝)
 参加者：137名(会員・協賛59名, 学生会員・協賛13名, 会員外:19名, 会員外学生:6名, 賛助優待:9名, 賛助招待:13名, 団体:18名)
- (2) 第147回セミナー「ロボティクスと最適化の今と未来」
 期日：2023年7月26日(水)キャンパスプラザ京都およびオンライン開催
 講師：梅谷俊治(大阪大学), 豊田充(東京都立大学), 大塚敏之(京都大学), 森安竜大(豊田中央研究所), 一杉太郎(東京大学)
 オーガナイザー：井上聖也(オムロン株式会社)
 参加者：104名(会員・協賛47名, 学生会員・協賛13名, 会員外:13名, 会員外学生:2名, 賛助優待:10名, 賛助招待:9名, 団体:10名)
- (3) 第148回セミナー「ロボットのためのビジョンシステム」
 期日：2023年8月28日(月)オンライン開催
 講師：香川景一郎(静岡大学), 久保尋之(千葉大学), 並木明夫(千葉大学), 下ノ村和弘(立命館大学), 荒井大輔(ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社)
 オーガナイザー：安川真輔(九州工業大学)
 参加者：35名(会員・協賛18名, 学生会員・協賛:7名, 会員外:1名, 会員外学生:1名, 賛助優待:5名, 賛助招待:3名)
- (4) 第149回セミナー「ロボットと機構学」
 期日：2023年10月27日(金)オンライン開催
 講師：多田隈建二郎(東北大学), 武田行生(東京工業大学), 遠藤玄(東京工業大学), 塚越秀行(東京工業大学), 増田容一(大阪大学), 加古川篤(立命館大学)
 オーガナイザー：金田礼人(九州大学)
 参加者：89名(会員・協賛32名, 学生会員・協賛:19名, 会員外:3名, 会員外学生:1名, 賛助優待:5名, 賛助招待:9名, 団体:20名)
- (5) 第150回セミナー「自己位置推定・地図生成の理論から実践まで」
 期日：2023年12月5日(火)オンライン開催
 講師：原祥堯(千葉工業大学), 田崎勇一(神戸大学), 赤井直紀(名古屋大学・株式会社LOCT), 萩田浩史(株式会社ティアフォー), 橋川雄樹(株式会社マップフォー)
 オーガナイザー：小出健司(産業技術総合研究所)
 参加者：161名(会員・協賛50名, 学生会員・協賛:28名, 会員外:25名, 会員外学生:8名, 賛助優待:24名, 賛助招待:16名, 団体:10名)

2. ジョイントフォーラム

- (1) 日本機械学会2023年度年次大会特別行事企画先端技術フォーラム
 「人間に代わる機械～横断的観点から～(RSJ・日本機械学会ジョイントフォーラム)」
 期日：2023年9月6日(水)13:00～16:00
 会場：東京都立大学(南大沢キャンパス)
 ・「人間と交代勤務するロボットに必要な技術」／西田健(北九州市立大学)
 ・「自律型移動マニピュレータの産業応用」／坂本義弘(東京ロボティクス)
 ・「物流・倉庫業における自動化に向けた取組」／下村賢司(鴻池運輸株式会社)
 ・「自動車製造業におけるフレキシブル生産を支える部品物流」／藤井嘉治(マツダ株式会社)

3. 共催事業

- 本会に関連する国内行事(講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等)の共催・協賛・後援について審査を行った。共催8件, 協賛72件, 後援22件(2023年1月1日～12月31日審査分)
 主な国内共催事業：
 (1) ロボカップジャパンオープン2023(2023年4月27日～5月7日)
 (2) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2023(2023年6月18日)

- 日)
 (3) レスキュー・ロボットコンテスト2023(2023年6月25日～8月12日)
 (4) つくばチャレンジ2023(2023年7月15日～2024年1月20日)
 (5) 第21回建設ロボットシンポジウム(2023年9月5日～9月7日)
 (6) 原子力総合シンポジウム2023(2024年1月24日)

IX. 法人処理 [担当: 庶務理事]

1. 会員状況

	令和5年12月31日現在	令和4年12月31日現在	増減
名誉会員	13名	11名	2名増
正会員	2,775名	2,788名	13名減
学生会員A	175名	176名	1名減
学生会員B	468名	472名	4名減
終身会員	183名	174名	9名増
会員総数	3,614名	3,621名	7名減
賛助会員	98団体(119口)	95団体(116口)	3団体増(3口増)

2. 総会

(1) 第13回定期総会

会期：令和5年3月22日(水)

会場：全水道会館会議室

出席代議員数：56名(うち委任状提出：40名)

(代議員総数：59名, 総会成立の定数30名以上, 議題の可決に必要な出席代議員数40名以上)

議題：令和4年度の事業報告・決算報告, 令和5年度の事業計画・予算計画, 令和5年度役員の選任, 名誉会員の選出, 定款の変更, 以上について審議し, 議決した。

3. 委員会

下記の委員会を開催した。

委員会名	委員長(1月～3月)	委員長(3月～12月)
会誌編集委員会	前田雄介	菅原雄介
欧文誌委員会	山本江	辻俊明
事業計画委員会	横田諭	上田悦子／姜山
国際委員会	中西淳／田原健二	山野辺夏樹
研究協議会	橋本浩一	久保田哲也
学術講演会実行委員会	太田順(40回)	大野和則(41回)
役員推薦委員会	足立勝	遠藤玄
代議員選挙管理委員会	足立勝	—(代議員選挙なし)
フェロー選考委員会	村上弘記	菅野重樹
フェロー推薦委員会	吉見卓	吉見卓
表彰委員会	菅野重樹	木口量夫
学会誌論文賞選考小委員会	橋本浩一	久保田哲也
Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	菅野重樹	木口量夫
実用化技術賞選考小委員会	菅野重樹	木口量夫
研究奨励賞選考小委員会	橋本浩一	久保田哲也
功労賞選考小委員会	菅野重樹	木口量夫
ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	橋本浩一	久保田哲也
学術講演会関連賞選考小委員会	橋本浩一	菅野重樹
International Session Best Presentation Award 選考小委員会	太田順	大野和則
ロボティクスシンポジウム関連賞選考小委員会	橋本浩一	久保田哲也
外部表彰選考小委員会	菅野重樹	木口量夫
体制整備委員会	村上弘記	菅野重樹
アドバイザリーボード	村上弘記	菅野重樹

コンプライアンス委員会	村上弘記	菅野重樹
ダイバーシティ推進委員会(2023年度より新設)	一	上田悦子
情報システム管理委員会	伊藤真平	香月理絵
学術講演会運営委員会	菅野重樹	久保田哲也
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	小椋 優	香月理絵
学会価値委員会	村上弘記	菅野重樹

4. 役員の選出

令和5年度の理事・監事を選出した。

5. 運営報告会、理事会

- (1) 令和5年9月12日(火)に運営報告会を開催し、会務報告を行った。
- (2) 令和5年度中に10回の理事会を開催し、会務の審理と処理を行った。

6. フェローの選任

4名のフェローを選任した。

7. 学会の基盤強化

基盤強化に先立ち現状を把握するため、会員数の推移を調査した。調査の結果、全会員数は2018年から漸減傾向にあり、学生会員数の減少が顕著であることを確認した。学生会員数が減少した一因は学術講演会への参加資格の変更と考えられる。一方、会員の多数を占める企業所属の会員数も漸減しており、対策が必要である。学会の価値やサービスの向上が会員数の増加につながるため、8. に示す施策を実施した。

事務局運営の法的基盤を明確にするために、事務局職員就業に関する規程類の整備を行い、さらに、事務局員の働き方改革につなげるため勤務時間管理ツールを導入した。加えて、事務局人件費の削減と事務局内作業分担の適正化を図るために、派遣人材1名を正社員として雇用した。

COVID-19を契機に推進したテレワークやオンライン会議は、業務の効率化やBCP（事業継続計画）対応に寄与するため、5類に移行した現在もオンライン業務・会議と並行して実施している。

8. 学会の社会的価値・サービスの向上

会員向け既存サービスである、学術講演会(RSJ, IROS)、ロボット工学セミナー、学会誌、欧文誌、ホームページ、表彰、研究専門委員会を通じた研究の支援等は、担当理事や委員会が積極的に推進している。主要なサービスとなる第41回学術講演会(RSJ2023)は、講演発表のみならず、感染症の流行状況をにらみつつ復活した懇親会や、参加者の導線上に配置した企業展示ブースなども好評を博した。懇親会でのネットワーキング、スポンサー企業によるランチョンセミナーや企業展示の盛況は、企業出身の参加者やスポンサー企業のメリットになると見える。

女性や中高生がロボットにより関心を持ってもらうために、2023年度からダイバーシティ推進委員会と教育事業委員会を新設した。RSJ2023オープンフォーラム、研究室の見学会などを実施し、参加者に好評を博した。加えて、学生会員向けサービス向上のための施策を理事会で継続的に議論している。

X. 事業報告に係る附属明細書【担当：庶務理事】

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

お 知 ら せ

【第2号議案】

令和5年度 決算報告

貸 借 対 照 表
令和5年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現 金 預 金	336,377,929	271,723,226	64,654,703
現 金	5,638,201	3,887,511	1,750,690
普 通 預 金	188,983,380	126,095,255	62,888,125
振 替 口 座	7,253,011	7,239,391	13,620
通 常 貯 金	989,553	989,545	8
定 期 預 金	133,513,784	133,511,524	2,260
未 収 会 費	1,909,200	1,578,000	331,200
未 収 金	2,590,434	2,974,246	△ 383,812
前 払 金	550,968	1,072,175	△ 521,207
立 替 金	36,300	0	36,300
仮 払 金	7,011,768	6,270,536	741,232
流 動 資 産 合 計	348,476,599	283,618,183	64,858,416
2. 固 定 資 産			
(1) 特 定 資 産			
退職給付引当資産	16,919,330	15,454,700	1,464,630
定 期 預 金	21,000,000	21,000,000	0
特 定 資 産 合 計	37,919,330	36,454,700	1,464,630
(2) その他の固定資産			
電 話 加 入 権	153,100	153,100	0
敷 金	63,000	63,000	0
保 証 金	2,500,000	2,500,000	0
その他の固定資産合計	2,716,100	2,716,100	0
固 定 資 産 合 計	40,635,430	39,170,800	1,464,630
資 産 合 計	389,112,029	322,788,983	66,323,046
II 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
未 払 金	1,716,833	2,146,096	△ 429,263
前 受 会 費	18,560,800	19,702,400	△ 1,141,600
前 受 金	8,500	0	8,500
前 受 入 会 金	3,000	1,000	2,000
預 り 金	1,361,042	1,080,112	280,930
仮 受 金	5,431,578	3,682,262	1,749,316
未 払 法 人 税 等	70,000	70,000	0
流 動 負 債 合 計	27,151,753	26,681,870	469,883
2. 固 定 負 債			
退職給付引当金	16,919,330	15,454,700	1,464,630
固 定 負 債 合 計	16,919,330	15,454,700	1,464,630
負 債 合 計	44,071,083	42,136,570	1,934,513
III 正味財産の部			
一 般 正 味 財 産	345,040,946	280,652,413	64,388,533
(うち特定資産への充当額)	(21,000,000)	(21,000,000)	(0)
正 味 財 産 合 計	345,040,946	280,652,413	64,388,533
負債及び正味財産合計	389,112,029	322,788,983	66,323,046

貸借対照表内訳表

令和5年12月31日現在

(単位:円)

科 目	実施事業等会計	その格會計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資 産 の 部					
1. 流 動 資 産					
現 金 預 金	3,410,488	2,000,000	330,967,441		336,377,929
未 収 会 費			1,909,200		1,909,200
未 収 金			2,590,434		2,590,434
前 払 金			550,968		550,968
立 替 金			36,300		36,300
仮 払 金			7,011,768	5,410,488	1,601,280
流 動 資 産 合 計	3,410,488	2,000,000	343,066,111	5,410,488	343,066,111
2. 固 定 資 産					
(1) 特 定 資 産					
退職給付引当資産	12,307,405	723,866	3,888,059		16,919,330
定期預金			21,000,000		21,000,000
特 定 資 産 合 計	12,307,405	723,866	24,888,059	0	37,919,330
(2) その他の固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷 金			63,000		63,000
保 証 金			2,500,000		2,500,000
その他の固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631	0	2,716,100
固 定 資 産 合 計	12,383,669	749,071	27,502,690	0	40,635,430
資 産 合 計	15,794,157	2,749,071	370,568,801	5,410,488	383,701,541
II 負 債 の 部					
1. 流 動 負 債					
未 払 金			1,716,833		1,716,833
前 受 会 費			18,560,800		18,560,800
前 受 金			8,500		8,500
前 受 入 会 金			3,000		3,000
預り金			1,361,042		1,361,042
仮受金	3,410,488	2,000,000	21,090	5,410,488	21,090
未 払 法 人 税 等			70,000		70,000
流 動 負 債 合 計	3,410,488	2,000,000	21,741,265	5,410,488	21,741,265
2. 固 定 負 債					
退職給付引当金	12,307,405	723,866	3,888,059		16,919,330
固 定 負 債 合 計	12,307,405	723,866	3,888,059	0	16,919,330
負 債 合 計	15,717,893	2,723,866	25,629,324	5,410,488	38,660,595
会計区分間振替勘定					
会計区分間振替勘定	76,264	25,205	△ 101,469		0
会計区分間振替勘定合計	76,264	25,205	△ 101,469	0	0
III 正味財産の部					
一 般 正 味 財 産	0	0	345,040,946	0	345,040,946
正 味 財 産 合 計	0	0	345,040,946	0	345,040,946
負債及び正味財産合計	15,794,157	2,749,071	370,568,801	5,410,488	383,701,541

お 知 ら せ

正味財産増減計算書
令和5年1月1日から令和5年12月31日まで
(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①特定資産運用益	131	126	5
特定資産受取利息	131	126	5
②受取入会金	100,000	112,000	△ 12,000
正会員受取入会金	100,000	112,000	△ 12,000
学生会員受取入会金	0	0	0
③受取会費	40,045,600	40,222,400	△ 176,800
正会員受取会費	28,120,000	28,636,000	△ 516,000
学生会員受取会費	2,005,600	1,906,400	99,200
賛助会員受取会費	9,920,000	9,680,000	240,000
④事業収益	55,852,709	49,514,388	6,338,321
参加費事業収益	24,262,000	22,818,000	1,444,000
懇親会参加費事業収益	2,551,000	0	2,551,000
展示料事業収益	11,119,000	5,800,000	5,319,000
講演概要集広告料事業収益	0	0	0
セミナー参加費事業収益	3,790,000	4,364,000	△ 574,000
会誌掲載料事業収益	6,219,400	7,631,800	△ 1,412,400
会誌広告料事業収益	4,011,689	5,129,388	△ 1,117,699
会誌頒布事業収益	1,106,820	1,227,600	△ 120,780
編集料事業収益	2,792,800	2,543,600	249,200
⑤受取補助金等	0	0	0
受取国庫補助金	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	0	0
受取民間補助金	0	0	0
⑥雑収益	101,877,920	24,950,778	76,927,142
受取利息	3,633	3,497	136
雑収益	101,874,287	24,947,281	76,927,006
経常収益計	197,876,360	114,799,692	83,076,668
(2) 経常費用			
①事業費			
給料手当	75,469,137	63,827,054	11,642,083
臨時雇賃金	14,149,364	10,494,260	3,655,104
退職給付費用	1,924,533	4,965,196	△ 3,040,663
福利厚生費	1,163,172	208,365	954,807
旅費交通費	2,129,516	1,683,965	445,551
通信運搬費	1,400,500	282,530	1,117,970
消耗什器備品費	4,749,254	4,237,897	511,357
消耗品費	0	0	0
印刷製本費	511,230	735,616	△ 224,386
賃借料	14,163,155	14,799,061	△ 635,906
諸謝金	8,589,606	1,915,990	6,673,616
租税公課	2,082,069	1,828,328	253,741
支払負担金	1,757,500	1,044,500	713,000
委託費	9,333,623	5,152,080	4,181,543
雜費	11,837,900	15,346,880	△ 3,508,980
②管理費			
給料手当	10,147,866	9,658,683	489,183
臨時雇賃金	0	332,423	△ 332,423
退職給付費用	301,458	24	301,434
福利厚生費	1,641,082	1,661,000	△ 19,918
旅費交通費	361,334	95,002	266,332
通信運搬費	1,515,923	946,194	569,729
消耗什器備品費	751,530	0	751,530
消耗品費	264,363	333,900	△ 69,537
修繕費	23,100	64,790	△ 41,690
印刷製本費	417,330	477,285	△ 59,955
光熱水料費	420,945	452,455	△ 31,510
賃借料	7,347,104	7,506,573	△ 159,469
保険料	6,000	12,000	△ 6,000
支払手数料	1,813,041	1,745,674	67,367
諸会費	350,445	341,806	8,639

諸謝金	1,604,130	1,154,450	449,680
租税公課	90,900	56,200	34,700
委託費	3,276,840	2,136,799	1,140,041
雜費	27,615,299	763,260	26,852,039
経常費用計	133,417,827	91,565,572	41,852,255
評価損益等調整前当期経常増減額	64,458,533	23,234,120	41,224,413
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	64,458,533	23,234,120	41,224,413
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	64,458,533	23,234,120	41,224,413
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	64,388,533	23,164,120	41,224,413
一般正味財産期首残高	280,652,413	257,488,293	23,164,120
一般正味財産期末残高	345,040,946	280,652,413	64,388,533
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	345,040,946	280,652,413	64,388,533

お 知 ら せ

正味財産増減計算書内訳表

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

No. 1

(単位:円)

科 目	実施事業等会計							
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	小計 (A)
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入会金								
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	0	11337.909	2792.800	0	0	0	0	14,130.709
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇親会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演陳述会料事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載事業収益		6219.400						6219.400
会誌広告料事業収益		4011.689						4011.689
会誌頒布事業収益		1106.820						1106.820
編集料事業収益		2792.800						2792.800
受取補助金等								
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取民間補助金								
受取寄付金								
受取寄付金								
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								
雑 収 益								
経常収益計	0	11337.909	2792.800	0	0	0	0	14,130.709
(2) 経常費用								
事業費	1,020.073	25,447.804	5,881.184	1,702.608	7,766.672	1,409.839	0	43,228.180
給料手当		5,454.915			5,422.278			10,877.193
臨時雇賃金	128.537	28.630		28.600				185.967
退職給付費用		376.909			420.722			797.631
福利厚生費		906.137			831.866			1,738.003
旅費交通費	45.194	22.840	59.265	274.060	71.120	622.242		1,094.721
通信費	324.263	134.676	49.423	416.0	223.431			3,653.953
消耗什器備品費								
消耗品費	192.462	192.12	94	46.850	5.717			265.183
印刷製本費		12,032.778			14,912			12,047.690
賃借料	839.533			121.800				961.333
諸謝金				926.486				926.486
租税公課		636.000						636.000
支払負担金		2,466.187	165.770					2,631.957
委託費		2,554.870	3,201.844					5,756.714
雑 費	6.809			135.327	969.676	543.537		1,655.349
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								
旅費交通費								
通信費								
信運搬費								
消耗什器備品費								
消耗品費								
修繕費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								

支 払 手 数 料								
諸 会 費								
諸 謝 金								
租 稅 公 課								
委 託 費								
雑 費								
経 常 費 用 計	1,020.073	25,447.804	5,881.184	1,702.608	7,766.672	1,409.839	0	43,228.180
評価損益等調整額 当期経常増減額	-1,020.073	-14,109.895	-3,088.384	-1,702.608	-7,766.672	-1,409.839	0	-29,097.471
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-1,020.073	-14,109.895	-3,088.384	-1,702.608	-7,766.672	-1,409.839	0	-29,097.471
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額 当期一般正味財産増減額	-1,020.073	-14,109.895	-3,088.384	-1,702.608	-7,766.672	-1,409.839	0	-29,097.471
他会計振替額	1,020.073	14,109.895	3,088.384	1,702.608	7,766.672	1,409.839	0	29,097.471
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税								
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0

お知らせ

正味財産増減計算書内訳表

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

No. 2

(単位:円)

科 目	その他会計			法人会計 (C)	内部取引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共通			
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
特定資産運用益	0	0	0	0	131	0
特定資産受取利息					131	131
受取入会金	0	0	0	0	100,000	0
正会員受取入会金					100,000	100,000
受取会費	0	0	0	0	40,045,600	0
正会員受取会費					28,120,000	28,120,000
学生会員受取会費					2,005,600	2,005,600
賛助会員受取会費					9,920,000	9,920,000
事業収益	37,932,000	3,790,000	0	41,722,000	0	0
申込金事業収益						
参加費事業収益	24,262,000			24,262,000		24,262,000
懇親会参加費事業収益	2,551,000			2,551,000		2,551,000
展示料事業収益	11,119,000			11,119,000		11,119,000
講演料事業収益						
セミナー参加費事業収益		3,790,000		3,790,000		3,790,000
会誌掲載料事業収益						6219,400
会誌広告料事業収益						4011,689
会誌頒布料事業収益						1,106,820
編集料事業収益						2,792,800
受取補助金等						
受取国庫補助金						
受取地方公共団体補助金						
受取地方公共団体助成金						
受取民間補助金						
受取寄付金						
受取寄付金						
雑収益	0	0	0	0	101,877,920	0
受取利息					3,633	3,633
雑収益					101,874,287	101,874,287
経常収益計	37,932,000	3,790,000	0	41,722,000	142,023,651	0
(2) 経常費用						
事業費	27,409,637	4,831,320	0	32,240,957	0	0
給料手当	1,059,116	2,213,055		3,272,171		14,149,364
臨時雇賃金	1,156,838	581,728		1,738,566		1,924,533
退職給付費用	66,725	298,816		365,541		1,163,172
福利厚生費	154,101	237,412		391,513		2,129,516
旅費交通費	194,654	111,125		305,779		1,400,500
通信運搬費	1,091,188	4,113		1,095,301		4,749,254
消耗耗材備品費						
消耗品費	219,767	26,280		246,047		511,230
印刷製本費	2,115,465			2,115,465		14,163,155
賃借料	7,555,793	72,480		7,628,273		8,589,606
諸謝金	149,348	1,006,235		1,155,583		2,082,069
租税公課	891,400	230,100		1,121,500		1,737,500
支払負担金	6,652,166	49,500		6,701,666		9,333,623
委託費	6,081,186			6,081,186		11,837,900
雑費	21,890	476		22,366		1,677,715
管理費	0	0	0	0	57,948,690	0
給料手当					10,147,866	10,147,866
臨時雇賃金						
退職給付費用					301,458	301,458
福利厚生費					1,641,082	1,641,082
会議費						
旅費交通費					361,334	361,334
通信運搬費					1,515,923	1,515,923
消耗耗材備品費					751,530	751,530
消耗品費					264,363	264,363

修繕費				23,100		23,100
印刷製本費				417,330		417,330
光熱水料費				420,945		420,945
賃借料				7,347,104		7,347,104
保険料				6,000		6,000
支払手数料				1,813,041		1,813,041
諸会費				350,445		350,445
諸謝金				1,604,130		1,604,130
租税公課				90,900		90,900
委託費				3,276,840		3,276,840
雑費				27,615,299		27,615,299
経常費用計	27,409,637	4,831,320	0	32,240,957	57,948,690	0
評価損益等調整前 当期経常増減額	10,522,363	- 1,041,320	0	9,481,043	84,074,961	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	10,522,363	- 1,041,320	0	9,481,043	84,074,961	0
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替額前 当期一般正味財産増減額	10,522,363	- 1,041,320	0	9,481,043	84,074,961	0
他会計振替額	- 10,522,363	1,041,320	0	- 9,481,043	- 19,616,428	0
翌年償還額	0	0	0	0	64,458,533	0
法人税、住民税及び事業税					70,000	70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	64,388,533	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	280,652,413	0
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	345,040,946	0
II 指定正味財産増減の部						
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	345,040,946	0

お 知 ら せ

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を
計上している。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特 定 資 産				
退職給付引当資産	15,454,700	1,464,630	0	16,919,330
定 期 預 金	21,000,000	0	0	21,000,000
合 計	36,454,700	1,464,630	0	37,919,330

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に對応する額)
特 定 資 産				
退職給付引当資産	16,919,330	—	(16,919,330)	(16,919,330)
定 期 預 金	21,000,000	(0)	(21,000,000)	—
合 計	37,919,330	(0)	(37,919,330)	(16,919,330)

附 属 明 細 書

1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、「財務諸表に対する注記」の「2. 特定資産の増減額及びその残高」に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期 増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	15,454,700	1,464,630	0	0	16,919,330

お 知 ら せ

財 産 目 錄

令和5年12月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	
現金 手許有高	5,638,201
普通預金 三菱UFJ銀行本店	92,793,609
〃 みずほ銀行本郷支店	5,636,891
〃 りそな銀行本郷支店	28,709,071
〃 三井住友銀行小石川支店	12,377,809
〃 三井住友銀行小石川支店	49,466,000
定期預金	
定期預金 三井住友銀行小石川支店	55,295,342
〃 三菱UFJ信託銀行本店	60,145,840
〃 みずほ銀行本郷支店	18,072,602
振替口座 ゆうちょ銀行	7,253,011
通常貯金 ゆうちょ銀行	989,553
未収会費 令和5年度会費 265名、2口	1,909,200
未収金 学会誌投稿料・広告料他	2,590,434
前払金 令和6年1月分事務所家賃他	550,968
立替金 ロボティクスシンポジアWEBサーバー費用(SICE分)	36,300
仮払金 IROS2022Advanced Loan	1,601,280
流動資産合計	343,066,111
2 固定資産	
(1) 特定資産	
退職給付引当資産(普通預金) 三菱UFJ銀行春日町支店	16,919,330
定期預金 三菱UFJ銀行本店	21,000,000
特定資産合計	37,919,330
(2) その他固定資産	
電話加入権 2本	153,100
敷金 貸貸借契約敷金	63,000
保証金 貸貸借契約保証金	2,500,000
その他固定資産合計	2,716,100
固定資産合計	40,635,430
資産合計	383,701,541
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金 日本ロボット学会誌41-10出版費、公告・別刷料	1,289,323
〃 日本ロボット学会誌41-10封入・発送費	324,910
〃 税理士顧問料(11、12月分)他	102,600
前受会費 会費前受分	18,560,800
前受金 第151回ロボット工学セミナー参加費(オンライン)	8,500
前受入会金 入会金前受分	3,000
預り金 源泉所得税	444,784
〃 住民税	88,700
〃 社会保険料	827,558
仮受金 誤入金	21,090
未払法人税等 令和5年分法人税	70,000
流動負債合計	21,741,265
2 固定負債	
退職給付引当金 退職給付分	16,919,330
固定負債合計	16,919,330
負債合計	38,660,595
正味財産	345,040,946

監 査 報 告

私たち監事は、令和5年1月1日から令和5年12月31日までの第十三期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法および結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法およびその内容

各監事は、理事および使用人等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事および使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務および財産の状況を調査いたしました。以上のことから、当該事業年度に係る事業報告およびその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財務諸表に対する注記）およびその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

（1）事業報告等の監査結果

- 一 事業報告およびその附属明細書は、法令および定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

（2）財務諸表等およびその附属明細書の監査結果

財務諸表等およびその附属明細書は、法人の財産および損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和6年2月13日
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 松野 文俊 ㊞
監 事 村上 弘記 ㊞

【報告資料 1】

令和 6 年度 事業計画

(自 令和 6 年 1 月 1 日 至 令和 6 年 12 月 31 日)

I. シンポジウム（継続事業 1）[担当：事業理事／学術講演会理事]

1. ロボット教育セミナー

事業計画委員会主催で、夏休み・冬休み期間に、小学生向けのからくり工作教室や中学生向けのセミナーなどを実施予定。

2. オープンフォーラム

第 42 回学術講演会（大阪府大阪市 大阪工業大学梅田キャンパス、2024 年 9 月 3 日(火)～6 日(金)）にて、オープンフォーラム（無料・一般公開）を企画予定。

3. ダイバーシティ推進委員会企画

- (1) 2023 年度活動の継続（女子中高生向け各種イベント企画実施、RSJ2024 での OF 企画実施、Frau 活動）。
- (2) 女子中高生 夏の学校 (<https://natsugaku.jp/>) に RSJ として単独出展。
- (3) 各種女子中高生応援団体との連携強化（イベントの共催や情報共有など）。

II. 学会誌（継続事業 2）[担当：学会誌理事]（定款第 4 条 2 号）

従来どおり、学会誌全 10 号を、1 月、3 月、4 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月に刊行し、会員に配布する。なお、各号の特集テーマは以下を予定している。

- 第 42 卷 1 号 「文化」としてのロボット
- 第 42 卷 2 号 Cyber-Physical-Human System のためのシステム制御技術（仮）
- 第 42 卷 3 号 COMPASS 5.0 ロボット分野（仮）
- 第 42 卷 4 号 研究者と出産・育児（仮）
- 第 42 卷 5 号 ソフトロボット学 1（仮）
- 第 42 卷 6 号 ソフトロボット学 2（仮）
- 第 42 卷 7 号 のぼる（仮）
- 第 42 卷 8 号 刺激応答（仮）
- 第 42 卷 9 号（未定）
- 第 42 卷 10 号（未定）

特集については、ロボット学の幅広い学問領域において、学術的真理の追求から社会的問題解決に至るまで、偏りなく縦横無尽に特集を展開する。また、会員の興味がありそうな話題についての一般記事を不定期で掲載するなど会誌の魅力向上にも取り組む。

学生編集委員による活動を活性化させるべく、支援体制の強化を進める。また、ロボ学ウェブサイトとの連携なども継続的に実施していく。

令和 2 年度から始まった学術講演会とのレター同時投稿制度については、論文投稿数の増加に大きく貢献している。令和 5 年度に実施した ScholarOne Manuscript 上でのシステム改善によって事務局および論文査読小委員会の負担が軽減され、論文投稿から早期公開・掲載までの期間短縮を実現できると考えている。また、第 39 卷 9 号分より開始している掲載決定論文の早期公開の制度を引き続き周知するなど、著者サービスの強化を通して投稿数の確保に努める。

広告に関しては、収入目標を例年と同様 400 万円と設定し、特集に関連した企業広告の獲得など目標達成に向けた取り組みを進める。

III. 欧文誌（継続事業 3）[担当：欧文誌理事]（定款第 4 条 2 号）

1. 欧文誌（Advanced Robotics）の発行計画

下記のとおり、2024 年度においては Vol. 38 を年 24 号発行することを計画している。

Vol./No.	Online Pub date	Theme of Issues
38/1-2	2024/Jan	Regular Issue
38/3	Feb	Control, Mechatronics, and Integrated Design for Physical Human Support
38/4	Feb	Regular Issue
38/5	Mar	Regular Issue
38/6	Mar	Regular Issue
38/7	Apr	Social Interaction with More than One Robot
38/8	Apr	Regular Issue
38/9	May	Advanced Technologies for Augmenting Canine-Human Communication
38/10	May	Regular Issue
38/11	Jun	Recent Advances in Nonlinear Robot Control

38/12	Jul	Technology
38/13	Jul	Regular Issue
38/14	Jul	Regular Issue
38/15	Aug	Adaptive Motion of Animals and Machines
38/16	Aug	Regular Issue
38/17	Sep	Real-World Robot Applications of the Foundation Models
38/18	Sep	Regular Issue
38/19	Oct	Selected Papers from RO-MAN2023 (Tentative title)
38/20	Oct	Regular Issue
38/21	Nov	Improving Health-Related Quality of Life (HRQOL) through Safe Human-Robot Collaboration
38/22	Nov	Regular Issue
38/23	Dec	Regular Issue
38/24	Dec	Regular Issue

2. 編集体制

2024 年度は、倉林大輔編集長の下、シニアエディター 13 名を中心に、査読小委員会、国際編集委員、アドバイザリー委員会のメンバーの協力を得ながら、欧文誌 Advanced Robotics の国際的認知度向上、さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく。

3. 欧文誌の内容向上に向けて

引き続き、インパクトファクタ向上を目指とする。2022 年のインパクトファクタは 2.0 であり（参考：2021 年・2.057, 2020 年・1.699, 2019 年・1.247, 2018 年・1.104, 2017 年・0.961），関連分野のほかの論文誌もインパクトファクタを高めている状況である。今後も戦略的にこれを上昇させる必要がある。国内外から優れた特色ある論文を集めさらなる活性化を果たすために、Section 制度（特定の副分野に独自のエディタ陣を配置し、自律的な査読を実施する制度）を創設する。Advanced Robotics 固有の特色／強みに依拠した Section が世界からの投稿を吸引することで国際化を進める効果も狙う。併せて Advanced Robotics の論文をフラグシップカンファレンスである IROS で発表できるよう連携を進める。

4. 国際化に向けての活動

上記の試みに加えて IROS における国際委員会との協力の下、外国人会員の獲得、周辺アジア諸国との連携など、Advanced Robotics を活用した日本ロボット学会の国際化に貢献していく。

IV. 調査・研究（継続事業 4）[担当：企画・広報理事]（定款第 4 条 3 号）

1. 研究専門委員会

委員会名	委員長	発足	種別
子どもを中心のロボティクス研究専門委員会	新妻実保子	2023 年 8 月	II 種
医療機器を搭載した汎用ロボットに関する研究専門委員会	小林英津子	2023 年 8 月	I 種
食品サンプル規格標準化研究専門委員会	和田一義	2023 年 4 月	I 種
ロボット性能評価工学研究専門委員会	佐藤徳孝	2023 年 1 月	I 種
介護ロボット研究専門委員会	柴田智広	2022 年 3 月	I 種
若手・学生のためのキャリアパス開拓研究専門委員会	横田 諭	2021 年 4 月	I 種
ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会	稻谷龍彦	2020 年 4 月	I 種
複雑高精度機械の組立技術研究専門委員会	大隅 久	2020 年 4 月	I 種
遊びとロボット研究専門委員会	望山 洋	2017 年 5 月	I 種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017 年 4 月	I 種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017 年 4 月	II 種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014 年 8 月	II 種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012 年 4 月	I 種

お 知 ら せ

ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	田原健二	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	田中孝之	2008年4月	I種
空間知能化研究専門委員会	李 周浩	2007年1月	II種

2. 学会特命委員会

委員会名	委員長	発足
F-REI 調査事業推進委員会	大須賀公一	2023年10月
災害対応ロボティクス委員会	松野文俊	2023年6月
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する研究会	吉見 卓	2023年4月
建設ロボット委員会	大隅 久	2023年4月
教育事業計画委員会	入部正継	2023年4月
产学連携委員会	久保田哲也	2023年4月

3. 研究協議会

学術講演会併催で研究協議会を開催し、各研究専門委員会の活動報告を行う。

V. 表彰（継続事業5）【担当：企画・広報理事】（定款第4条4号）

1. 表彰

第42回学術講演会において、学会誌論文賞、Advanced Robotics Paper Awards (Best Paper, Excellent Paper)、実用化技術賞、優秀研究・技術賞、優秀講演賞、若手講演賞、研究奨励賞、ロボティクスシンポジア研究奨励賞、ロボティクスシンポジア優秀研究・技術賞、ロボット活用社会貢献賞および功労賞の授与を行う。さらに、ロボット学の研究を行い、学業成績が優秀な大学部生、高等専門学校生に対して優秀学生賞の授与を行う。また、FA財団論文賞への候補論文の推薦など、学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる、外部団体からの各賞の推薦依頼やその他の表彰についても、積極的に対応していく。

VI. 国際（継続事業6）【担当：国際理事】（定款第4条5号）

1. 学術講演会における国際セッション

第42回日本ロボット学会学術講演会（大阪工業大学）において、国際セッションを組織する。発表者には、参加登録費を課すが、登壇資格は問わない。また、International Session Best Presentation Awardを選定する。

2. 国際会議関連

本会に係る下記国際会議の共催／協賛、運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う。

- ・ RO-MAN2024　　日程：2024年8月26日～8月30日、会場：アメリカ、パサデナ
- ・ IROS2024　　日程：2024年10月13日～10月17日、会場：アラブ首長国連邦、アブダビ

RO-MAN2024では、RSJ Pioneering Research Award in Robot and Human Interactive Communicationのスポンサーとなる。

RO-MAN Steering Committeeには、国際担当理事、事務局長が参加する。

IROS Steering Committeeには、会長、国際担当理事、事務局長が参加する。

IROS2024ではBest Conference Paper Awardのスポンサーとなる。

IROS2024でのRSJ主導企画として日本の大学の研究展示サポートの実施方法について検討・実施する。また、欧文誌委員会と協力し、IROSにおけるAdvanced Roboticsを活用したRSJのプレゼンスの向上について検討を進める。

3. その他

- (1) 日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施
 - ・ IROS, RO-MAN等の国際会議での日本ロボット学会の広報
 - ・ 英語による広報活動の展開（Webおよびパンフレット）
 - ・ インド TRSとの積極的な連携
 - ・ 対アジア外交における戦略の立案（協調と競争のバランス付け）
- (2) 国際委員会の位置づけと活動の活性化

VII. 学術講演会（その他事業1）【担当：学術講演会理事】（定款第4条1号）

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第42回学術講演会

期　　日：2024年9月3日(火)～6日(金)

会　　場：大阪府大阪市 大阪工業大学梅田キャンパス

実行委員長：河合俊和（大阪工業大学）

運営委員長：野田哲男（大阪工業大学）

プログラム委員長：谷口浩成（大阪工業大学）

プログラム副委員長：松添静子（富士通）

VIII. 講習会（その他事業2）【担当：事業理事】（定款第4条1号）

1. ロボット工学セミナー（すべて開催予定）

(1) 「ロボットのためのLLM・VLM利活用」

期　　日：2024年5月

オーガナイザ：坂井亮（日立製作所）

(2) 「力触覚・近接覚を活用したラスト1マイルのロボットマニピュレーション」

期　　日：2024年6月

オーガナイザ：濱屋政志（オムロンサイニックスエックス）

(3) 「画像やロボットを支える数理」

期　　日：2024年7月

オーガナイザ：澤田好秀（アイシン）

(4) 「陸・海・空！　フィールドで活躍するロボットやセンシング技術の開発とその勘所」

期　　日：2024年8月

オーガナイザ：水野勝紀（東京大学）

(5) 「ロボットの作り方」

期　　日：2023年9月

オーガナイザ：吉本幸太郎（株ティアフォー）、小水内俊介（香川大学）

(6) 「水中ドローンの新たな展望と技術革新」

期　　日：2024年10月

オーガナイザ：盛永明啓（長崎大学）

2. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。

国内共催事業（予定を含む）：

(1) 第29回ロボティクスシンポジア

期　　日：2024年3月5日(火), 6日(水)

開催地：沖縄県名護市

(2) ロボカップジャパンオープン2024

期　　日：未定, 開催地：未定

(3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2024

期　　日：未定, 開催地：未定

(4) レスキューロボットコンテスト2024

期　　日：未定, 開催地：未定

IX. 法人処理【担当：庶務理事】

1. 第14回定期総会

会　　期：令和6年3月22日（予定）

会　　場：全水道会館

2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

委員会名	委員長 (1月～3月)	委員長 (3月～12月予定)
会誌編集委員会	菅原雄介	田村雄介
欧文誌委員会	辻 俊明	谷口忠大
事業計画委員会	姜 山	我孫子聰子
国際委員会	山野辺夏樹	松原崇充／上出寛子
研究協議会	木口量夫	木口量夫
学術講演会実行委員会	大野和則 (41回)	河合俊和 (42回)
表彰委員会	久保田哲也	久保田哲也
学会誌論文賞選考小委員会	久保田哲也	久保田哲也
Advanced Robotics Paper Awards 選考小委員会	木口量夫	木口量夫

実用化技術賞選考小委員会	木口量夫	木口量夫
研究奨励賞選考小委員会	木口量夫	木口量夫
功労賞選考小委員会	木口量夫	木口量夫
ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	久保田哲也	久保田哲也
学術講演会関連賞選考小委員会	久保田哲也	久保田哲也
ロボティクスシンポジア関連賞選考小委員会	久保田哲也	久保田哲也
外部表彰選考小委員会	木口量夫	木口量夫
体制整備委員会	菅野重樹	菅野重樹
アドバイザリーボード	菅野重樹	菅野重樹
コンプライアンス委員会	菅野重樹	菅野重樹
情報システム管理委員会	香月理絵	岸 宏亮
学術講演会運営委員会	上田悦子	次期事業2理事
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	久保田哲也	久保田哲也
学会価値委員会	香月理絵	岸 宏亮

3. 役員の選出

令和6年度の理事・監事を選出する。

4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

5. 学会の基盤強化

昨年に引き続き、理事会・各種委員会で、個人会員および賛助会員の増大を目指し、各種改善施策を進める。COVID-19によるオンライン化で得た見を見活かし、オンラインとのベストミックスを探りつつ事業の拡大に努める。

外部への働き掛けとして、産業貢献・異業種連携活動の他、広報活動全般の強化を図る。特にHP・学会誌等のコンテンツ強化を引き続き推進し、学会の知名度向上をはかる。また、非専門家が入会しやすいくみの構築や認知活動の継続、学生会員が会員継続したくなる価値の創出と、若年層への啓発活動も継続実施する。さらに、ジェンダーバランスの改善、女性会員の増員に向けた活動を強化する。

6. 学会サービスの向上

学会価値委員会を中心に、学会ホームページのコンテンツの充実、情報サービスの拡大を、COVID-19をきっかけに変化した生活様式を考慮しつつ継続して推進し、会員サービスの質の向上を図るとともに、学会の社会的価値の向上をはかる。

7. 規約等の制定・整備

体制整備委員会、コンプライアンス委員会にて、学会運営の効率化・適正化、学会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を引き続き実施していく。

8. 将来検討

広報活動のフィードバックを反映し、学会価値委員会等の活動により、本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む。

9. 事務局運営

体制整備委員会の指導の下、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。

【報告資料 2】

令和6年度予算計画

科 目	実施事業等会計							小計 (A)
	織1 シンポジウム	織2 学会誌	織3 欧文誌	織4 調査・研究	織5 表彰	織6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入会金								
学生会員受取入会金								
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	0	14,740,000	2,793,000	0	0	0	0	17,533,000
申込金事業収益								
参加費事業収益								
要覧会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演概要集								
広告料事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		7,660,000						7,660,000
会誌広告料事業収益		5,680,000						5,680,000
会誌額布事業収益		1,400,000						1,400,000
編集料事業収益		2,793,000						2,793,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金								
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 利 息								
雑 収 益								
経常収益計	0	14,740,000	2,793,000	0	0	0	0	17,533,000
(2) 経常費用								
事業費	1,538,000	27,953,155	7,605,000	1,998,450	7,413,945	4,324,000	0	50,514,600
給料手当		6,833,815				5,263,395		12,097,200
臨時雇賃金	20,000	26,000						46,000
退職給付費用		88,400			62,400			150,800
福利厚生費		1,416,950				1,002,200		2,417,150
旅費交通費	497,000	200,000	59,000	67,000	71,000	1,500,000		2,394,000
通信運搬費	15,000	3,194,000	200,000	75,000		24,000		3,508,000
消耗什器備品費								
消耗品費	525,000	40,000	19,000	4,000	47,000			635,000
印刷製本費		12,500,000			95,000			12,595,000
賃借料	25,000				113,000			138,000
諸謝金	320,000	10,000			1,115,450			1,445,450
租税公課		636,000						636,000
支払負担金	82,000			2,325,000	94,000			2,501,000
委託費		2,980,000	4,747,000	300,000				8,027,000
雜費	54,000	10,000	255,000	135,000	970,000	2,800,000		4,224,000
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								
旅費交通費								
通信運搬費								
消耗什器備品費								

お知らせ

消耗品費						
印刷製本費						
光熱水料費						
賃借料						
保険料						
支払手数料						
諸会費						
諸謝金						
租税公課						
委託費						
雜費						
経常費用計	1,538,000	27,935,155	7,605,000	1,998,450	7,413,995	4,324,000
評価損益等調整額	-1,538,000	-13,195,155	-481,200	-1,998,450	-7,413,995	-4,324,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-1,538,000	-13,195,155	-481,200	-1,998,450	-7,413,995	-4,324,000
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	1,538,000	13,195,155	481,200	1,998,450	7,413,995	4,324,000
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0
法人税及び事業税						
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0

収支予算書(損益ベース)令和6年1月1日～令和6年12月31日(その他事業)

科 目	その他会計			法人会計 (C)	内部取引消去	合計 (A)+(B)+(C)
	他1 学術講演会	他2 講習会	共通			
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息						0
受取入会金	0	0	0	0	100,000	0
正会員受取入会金					100,000	100,000
学生会員受取入会金					0	0
受取会費	0	0	0	0	40,205,000	0
正会員受取会費					28,440,000	28,440,000
学生会員受取会費					2,005,000	2,005,000
賛助会員受取会費					9,760,000	9,760,000
事業収益	38,479,000	5,725,000	0	44,204,000	0	0
申込金事業収益	100,000			100,000		100,000
参加費事業収益	25,839,000			25,839,000		25,839,000
懇親会参加費事業収益	3,080,000			3,080,000		3,080,000
展示料事業収益	4,460,000			4,460,000		4,460,000
講演料事業収益	5,000,000			5,000,000		5,000,000
セミナー参加費事業収益		5,725,000		5,725,000		5,725,000
会誌掲載料事業収益						7,660,000
会誌広告料事業収益						5,680,000
会誌頒布事業収益						1,400,000
編集料事業収益						2,733,000
受け取り補助金等	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金						0
愛媛地方公共団体補助金						
愛媛地方公共団体助成金						
受取寄付金	0	0	0	0	0	0
受取寄付金						
雑収益	0	0	0	0	28,144,000	0
受取利息					4,000	4,000
雑収益					28,140,000	28,140,000
経常収益計	38,479,000	5,725,000	0	44,204,000	68,449,000	0
(2) 経常費用						
事業費	34,907,920	4,523,000	0	39,430,920	0	90,245,520
給料手当	883,370			883,370		12,980,570

臨時雇賃金	3,700,000	200,000		3,900,000		3,946,000
退職給付費用	5,200			5,200		156,000
福利厚生費	83,350			83,350		2,500,500
旅費交通費	3,300,000	940,000		4,240,000		6,634,000
通信運搬費	100,000	194,000		294,000		3,802,000
消耗什器備品費						
消耗品費	400,000	1,850,000		2,250,000		2,885,000
印刷製本費	2,081,000			2,081,000		14,676,000
賃借料	3,403,000	125,000		3,528,000		3,666,000
諸謝金	149,000	920,000		1,069,000		2,514,450
租税公課	891,000	230,000		1,121,000		1,757,000
支払負担金	9,228,000	24,000		9,252,000		11,753,000
委託費	10,684,000	16,000		10,700,000		18,727,000
雑費		24,000		24,000		4,248,000
管理費	0	0	0	0	39,125,930	0
給料手当					11,557,430	11,557,430
臨時雇賃金					52,000	52,000
退職給付費用					1,333,500	1,333,500
福利厚生費					900,000	900,000
会議費					900,000	900,000
旅費交通費					900,000	900,000
通信運搬費					530,000	530,000
消耗什器備品費					420,000	420,000
消耗品費					316,000	316,000
印刷製本費					445,000	445,000
光熱水料費					7,265,000	7,265,000
賃借料						
保険料						
支払手数料					1,784,000	1,784,000
諸会費					352,000	352,000
諸謝金					1,250,000	1,250,000
租税公課					91,000	91,000
委託費					3,330,000	3,330,000
雑費					8,600,000	8,600,000
経常費用計	34,907,920	4,523,000	0	39,430,920	39,125,930	0
評価損益等調整額	3,571,080	1,202,000	0	4,773,080	29,323,070	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	3,571,080	1,202,000	0	4,773,080	29,323,070	0
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-3,571,080	-1,202,000		-4,773,080	-28,308,520	0
税引前当期減額	0	0	0	0	0	0
法人税及び事業税					814,550	814,550
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	70,000	70,000

お 知 ら せ

【第3号議案】

令和6年度役員の件

日本ロボット学会定款第5章、役員選任規程および役員候補推薦規程に従い、下表右列の10名を令和6年新役員として推挙したい。

任期	令和6年度役員		
	令和4年3月～ 令和6年3月	令和5年3月～ 令和7年3月	令和6年3月～ 令和8年3月
理事		菅野重樹	
理事		久保田哲也	
理事		木口量夫	
理事	香月理絵	岸 宏亮	山本大介
理事	小野幸彦	堀内悠平	野口直昭
理事	星野由紀子	宮田なつき	小林英津子
理事	菅原雄介	田村雄介	石井裕之
理事	辻 俊明	谷口忠大	田中由浩
理事	姜 山	安孫子聰子	小田嶋成幸
理事	上田悦子	入部正継	瀬戸文美
理事	大野和則	河合俊和	倉林大輔
理事	山野辺夏樹	松原崇充	下ノ村和弘
理事		上出寛子	
監事	松野文俊	村上弘記	橋本浩一

【第4号議案】

名誉会員推挙の件

日本ロボット学会、名誉会員選任規程第2項（会長経験者、および、その他、ロボットの学術または技術に関する権威者で、かつ本会に対し功績顕著な者）に従い、下記の1名を新しく名誉会員として推挙したい。

浅田 稔

1953生 会員# 2840

なお、これに伴い、日本ロボット学会名誉会員は下記を含め23名（うち9名故人）となる。

氏 名	会員番号	生年
森 政弘	25	1927
梅谷陽二	41	1932
牧野 洋（故人）	43	1933
広瀬茂男	56	1947
長谷川幸男（故人）	71	1927
花房秀郎（故人）	73	1923
江尻正員	77	1937
藤井澄二（故人）	79	1920
佐藤知正	100	1948
木下源一郎（故人）	266	1941
金出武雄	292	1945
吉川恒夫	311	1941
米本完二（故人）	488	1924
内山 隆（故人）	506	1947
三浦宏文（故人）	1023	1938
小平紀生	1026	1952
稲葉清右衛門（故人）	1070	1925
有本 卓	1078	1936
福田敏男	1265	1948
原島文雄	2122	1940
榎原伸介	4185	1948
澤 俊裕	15452	1949